
近親嫌悪

麻未夢

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

近親嫌悪

【Nコード】

N0788P

【作者名】

麻未夢

【あらすじ】

僕の事を「弱虫」と蔑んでいた彼女は明日、僕の妻になる。彼女は相変わらず僕を蔑み、僕は彼女を愛してなかったけれど。

「弱虫」

20年前のあの日、そう言っただけの事を否定したあの女の子は、明日僕の妻になる。

僕は何も変わってはいない。相変わらず弱虫のままだ。

彼女も変わっちゃいない。彼女は20年前と同じく、僕を『弱虫』と蔑み、僕のことを否定している。

僕たちは両方とも、あの子供の頃と何も変わっちゃいなかった。けれども、僕たちが変わらなかったからといって、僕達の人生に何も変化がなかったわけじゃない。

5年前に、彼女は結婚した。僕はアメリカの大学に留学していた。その1年後、僕は大学を卒業して帰国し、父の会社に入った。彼女の夫は、僕の部下だった。

更に1年後、彼女は可愛い男の子を産んだ。僕は、部下に高価な出産祝いを贈った。

一昨年、その子供は病気になった。難しい病気だ、僕は大学時代の友人の助けを借りて、アメリカの某大病院の教授がその病気の権威であることを知り、それを部下に教えてやった。

去年、彼女は子供と一緒にアメリカに旅立っていった。僕は、子供のために金を都合してやった。

今年、治療を終えて元気になった子供を連れて彼女が帰国し、僕は指輪と最新のゲーム機を携えて、空港まで彼女たちを迎えに行った。

そして明日、僕たちは結婚し、同時に、僕は彼女の息子の父親になる。

弱虫で何が悪い？

僕は空港で彼女に指輪を渡しながら、プロポーズの言葉の代わりに、そんな言葉を囁いた。

彼女は何も言わず、指輪を受け取って薬指にそれを填めた。
最初は戸惑っていた子供は、母親の心境なんて知りもしないで、
気前の良い僕にすぐに懐いてくれた。

今日、彼女は僕の妻になる—— 筈だった。

彼女のマンションに迎えに行った僕がそこで見たものは、散らかった部屋の真ん中で、パジャマ姿のままゲームをしている『息子』だった。

「ママは、どうしたんだい？」

「お風呂」

ある予感を持って覗いた風呂場は、予想通り真っ赤に染まっていた。

「そんなに『弱虫』が嫌いなのかねえ……」

「『卑怯者』って言うてたよ」

「『弱虫』と『卑怯者』とじゃ、どっちがマシかな」

『息子』は「さあ」と返すと、ゲームをする手を止めて、僕の方を見上げてこう言った。

「お腹へった」

「着替えておいで、何か食べにいこう」

「うん」

立ち上がり、部屋に向かって駆け出す『息子』の背中を見送って、僕はまた風呂場に向かう。

「僕は、弱虫で卑怯者かい？」

そう尋ねても、勿論答える声はない。だが、僕が弱虫で卑怯者であることなんて、誰に言われなくたって僕自身が一番よく解っていることだ。

「子供を置いて逃げるなんて、君も弱虫で卑怯者だよ。僕達はどうやら、近親嫌悪ってやつだったみたいだね。……僕は、本当に君の

ことが大嫌いだったよ。20年前のあの時から、ずっとね」

それだけ言って風呂場を出ると、『息子』は既に玄関で靴を履いて僕を待ちかまえている。

「パパ、早く。お腹へこぺこだよ」

「好きな物をいっぱい食べさせてやるから、ちょっと待ってくれ」

僕は、おとなしくなった『息子』に笑いかけながら、部屋の電話から110番通報した。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0788p/>

近親嫌悪

2010年12月4日22時32分発行